

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成30年度病害虫防除情報第9号

早春期の各種病害虫について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**例年より気温の高い日が多く、病害虫の多発生が懸念されます。  
発生状況に応じて、適時・適切な防除を実施しましょう。**

- 1 対象 早春期の病害虫対策
- 2 気象の経過

昨年の12月以降、気温の高い傾向が続いており、特に1月中旬以降は、宮崎市で旬平均気温が平年を $+0.6^{\circ}\text{C}$ ~ $+3.2^{\circ}\text{C}$  (平均 $+1.9^{\circ}\text{C}$ )上回っています(図1)。また、1か月予報によると、九州南部の平均気温は高い確率が70%と予想されています(鹿児島地方気象台2月28日発表)。

暖冬により農作物の生育や病害虫の発生時期が早まることが懸念されますので、今後の病害虫発生状況に十分注意し、防除対策の徹底を図りましょう。

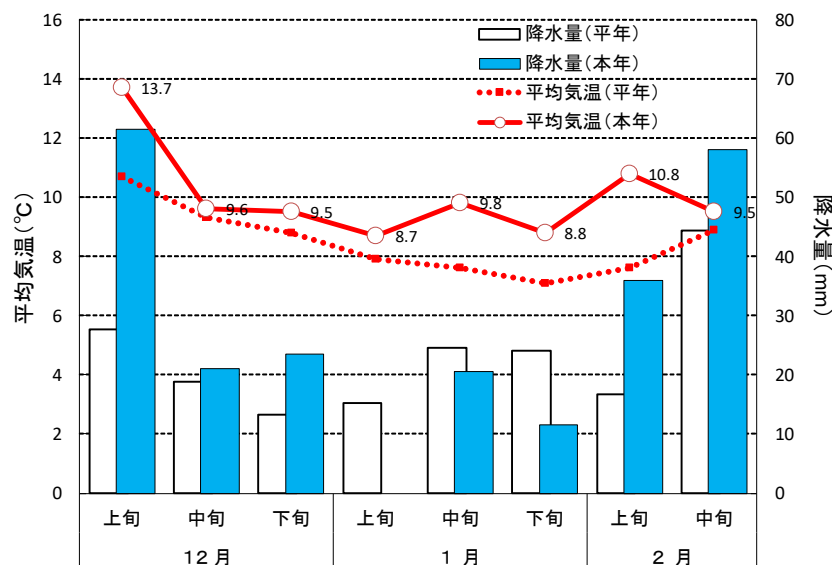


図1 宮崎市における気温と降水量の推移

### 3 防除上の留意点

#### 1) 施設栽培(キュウリ、ピーマン、トマト、イチゴ)

- (1) 施設栽培では暖房機の稼働時間が少なくなり、多湿性の病害(トマトの葉かび病、すすかび病、灰色かび病、キュウリのべと病、褐斑病、イチゴの灰色かび病)が発生しやすくなるので、日中は早めに換気を行い、作物の株間の通風をよくするなど施設内が過湿にならないように管理してください。
- (2) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類等の微小害虫は、増殖が促進されるとともに、施設内への侵入が早期化して被害が増大することが懸念されるので、早期発見、適期防除を徹底してください。

#### 2) 露地栽培(カンキツ、チャ)

- (1) 暖冬の場合、ハダニ類では越冬虫の生存率が高くなり増殖時期も早まるので、春先の発生量が多くなるとともに発生が早期化が懸念されます。園内をよく観察して害虫の早期発見に努め、防除が手遅れにならないよう適期に実施してください。
- (2) 果樹や茶樹の生育が早まり休眠期防除の実施適期が短くなることが想定されるので、早めに防除の準備を行い、散布適期を逸さないよう十分注意してください。

#### 3) 早期水稲

- (1) 気温の上昇により、むれ苗やいもち病、苗立枯病の発生が懸念されます。適正な温度管理(昼 20～25℃)に努め、早期発見、適期防除を徹底してください。
- (2) 暖冬の場合、スクミリンゴガイの生存率が高くなり、発生量が多くなるとともに早い時期からの発生が懸念されます。ほ場をよく観察して、防除が手遅れにならないよう適期に実施してください。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

●病虫害発生予察情報は、病虫害防除・肥料検査センターのホームページ(<http://www.jpnn.ne.jp/miyazaki/>)からも参照できます。

《連絡先》宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課 (病虫害防除・肥料検査センター) 寺本 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
---